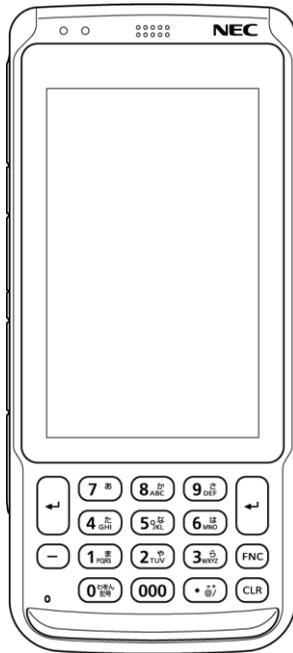


ポケットアイ エフエックス  
**Pocket@i™ FX**  
取扱説明書





# はじめに

このたびは、『Pocket@i FX』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、『Pocket@i FX』（以下、本装置）の取り扱い方法を説明しています。ご使用前に必ずお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も、必要に応じてすぐ見られるように大切に保管してください。

なお、データ入力など運用上の操作方法は、システムごとに定められた操作手順にしたがってください。

## ！ 注意

- ・ 本装置を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ず取扱説明書記載の警告、注意事項をお読みください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

本装置は、技術基準に適合した通信モジュールを内蔵しています。

本装置を廃棄するときは、各地方自治体の条例にしたがって処理してください。詳しくは、最寄りの自治体にお問い合わせください。

本装置(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格などには準拠していません。日本国以外への持ち出しや使用はできません。本装置を日本国外で使用した場合、当社は一切責任を負いません。

## 装置ラインナップ

・PW-WT91-01	Pocket@i FX スキャナなしモデル
・PW-WT91-11	Pocket@i FX スキャナなしカメラモデル
・PW-WT91-21	Pocket@i FX スキャナなしカメラ 3G モデル
・PW-WT91-02	Pocket@i FX スキャナモデル
・PW-WT91-12	Pocket@i FX スキャナカメラモデル
・PW-WT91-22	Pocket@i FX スキャナカメラ 3G モデル

本書に記載しているイラストには、基本的にスキャナモデル(PW-WT91-02)を使用しています。

# 安全に正しくお使いいただくために



本装置をご使用になる前に、必ずお読みください。

お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、次に示す危険、警告、注意を守り、本装置を安全に正しくお使いください。

注意事項を守っていただけない場合、どの程度の影響があるかを表します。

 <b>危険</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じる可能性がある内容を示します。
 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示します。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合、使用者が損害を負う可能性がある内容および物的損害の可能性のある内容を示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表します。

	<注意> 一般的な注意、警告、危険の通告を示しています。		<禁止> 一般的な禁止を示しています。
	<発火注意> 発火の可能性が想定されることを示しています。		<水気禁止> 風呂、シャワーなどの水場や水気の多い場所での使用を禁止することを示しています。
	<破裂注意> 破裂の可能性が想定されることを示しています。		<分解禁止> 機器を分解することを禁止することを示しています。
	<感電注意> 感電の可能性が想定されることを示しています。		<火気禁止> 火気の側での使用や、火中へ入れることを禁止することを示しています。
	<ケガ注意> ケガを負う可能性が想定されることを示しています。		<電源プラグを抜く> AC アダプタをコンセントから必ず抜くように指示しています。
	<義務行為> 必ず守っていただきたい内容を指示するものです。		

# ⚠ 危険

## ■ 充電電池パックは分解、改造しないでください。

充電電池パックには危険を防止するため安全機構や保護機構が内蔵されています。これらを損なうと、充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。



## ■ 充電電池パックを火の側、ストーブの側などの高温の場所で使用したり、放置しないでください。

熱により樹脂セパレータが損傷した場合、充電電池パックが内部ショートし発熱、破裂、発火する原因となります。



## ■ 充電電池パックを水などにつけたり、濡らさないでください。また、湿気が多い場所、水を扱う場所では使用しないでください。

充電電池パックに内蔵している保護機構が壊れると、異常な電流や電圧で充電され、充電電池パック内部で異常な化学反応が起こり、充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。



## ■ 充電電池パックを電源コンセントや車のシガレットコンセントに接続しないでください。

高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。



## ■ 強い衝撃を与えたり、落下させたり、投げつけたりしないでください。

充電電池パックに内蔵している保護機構が壊れると、異常な電流や電圧で充電電池パックが充電され、充電電池パック内部で異常な化学反応が起こり、充電電池パックが発熱、破裂、発火の原因となります。



## ■ 充電電池パックに釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

充電電池パックが破損、変形して、充電電池パック内部でショート状態となり、発熱、破裂、発火の原因となります。



## 危険

- 充電池パックは引火性のガスや発火性のある物質がある場所では使用しないでください。

充電池パックが破裂、発火する原因となります。



- 直射日光の強いところや炎天下の車内など充電池パックが高い温度になるところで使用したり、放置しないでください。

充電池パックが発熱、破裂、発火する原因になります。

また、電池性能や寿命が低下する原因となります。



## 警告

- 本装置を絶対に分解・改造しないでください。

故障、感電、火災の原因となります。

また、改造は電波法違反になる場合があります。



- 直射日光が長時間あたる場所、粉塵の多い場所、湿気が異常に多い場所、水を扱う場所、暖房機器などの発熱物の近くなどでは使用しないでください。

故障、感電、火災の原因となります。



- 本装置を自動車等の運転中に使用しないでください。車を安全なところに停車させてからご使用ください。

安全走行を損ない、事故の原因となります。



- ハンドベルト、ハンドストラップなどを持って本装置を振り回さないでください。

本人や他の人などに当たり、けがなどの事故や故障および破損の原因となります。



- タッチパネルに貼り付けてあるフィルム(飛散防止フィルム)をはがさないでください。

はがしてしまうと、タッチパネル破損時、けがの原因となります。



# 警告

- 引火性のガスや発火性の物質のある場所および、薬品や化学物質などを扱う場所では、絶対に使用しないでください。

火災、爆発、故障の原因となります。



- 食品(油脂・油煙)・薬品・洗剤等の環境剤が付着しやすい環境では使用しないでください。

故障の原因となります。



- 本装置専用充電電池パック以外の電池は、絶対に使用しないでください。

電池の爆発による火傷や、加熱による火災の原因となることがあります。



- 本装置で使用している充電電池パックを、火中に入れたり、加熱・分解ショートしたりすることは、絶対にやめてください。

火傷や爆発、火災の原因となることがあります。



- 充電電池パックの電極のプラス、マイナスは本装置に正しく入れてください。

充電電池パックの爆発による火傷や、加熱による火災の原因となることがあります。



- クレードル接続端子や各種コネクタを金属でショートさせないでください。

充電電池パックの爆発による火傷や、加熱による火災の原因となることが故障、感電、火災の原因となります。



- 防滴仕様機器であっても水につけないでください。



- 電子レンジや高圧容器に、本装置や充電電池パックを入れないでください。

本装置の発熱、発煙、発火や回路部品を破壊させたり、充電電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。



# 警告

- 充電電池パックは、お子様、特に乳幼児の手の届かない所へ保管してください。

死亡または重傷を負う可能性があります。  
誤って飲み込んだり、なめたりすると危険です。万が一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。



- 充電電池パックの使用、充電、保管時に異臭を発したり、発熱したり、変色、変形その他今までと異なることにお気づきの場合は、充電電池パックを本装置または充電器より取り外して、使用しないでください。

そのまま使用すると、充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。



- 充電電池パックの充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。

充電電池パックを発熱、破裂、発火させる原因となる恐れがあります。



- 充電電池パックが漏液したり、異臭がするときは直ちに火気より遠ざけてください。

漏液した電解液に引火し、破裂、発火させる原因となります。



- 充電電池パックが漏液して液が目に入ったときは、こすらずに水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

放置すると液により目に障害を与える原因となります。



- 近くで雷や落雷が発生している場合は、機器から離れ、機器や電源ケーブルなどに触れないでください。

雷や落雷が収まってから機器を点検し、異常があれば保守員または、購入元へご相談ください。  
落雷などによる停電があった場合は、保守員または、購入元へご相談されることをおすすめします。



- 故障した状態で使用しないでください。

感電、火災の原因となります。

急に画面の表示が消える、異臭がする、煙が出たなどの異常が生じたときは、すぐに本装置の電源を OFF にし、充電電池パックを取り外した後、保守員または、購入元へ連絡し、点検・修理を依頼してください。



# 警告

- 使用時または、保管時には開口部から、金属類・液体などの異物が入らないようにしてください。  
故障、感電、火災の原因となります。



万が一、異物が入ったときは、すぐに本装置の電源を OFF にし、充電電池パックを外した後、保守員または、購入元へ連絡し、点検・修理を依頼してください。

- 内部の点検、修理は保守員または購入元へご相談ください。



# 注意

- 温度・湿度条件内でご使用ください。  
故障の原因になります。



## 動作環境

項目	仕様
温度	動作時 : $-10^{\circ}\text{C} \sim 50^{\circ}\text{C}$ *1*3
	非動作時 : $-20^{\circ}\text{C} \sim 60^{\circ}\text{C}$ *1
湿度	動作時 : 20%~85% *2
	非動作時 : 10%~90% *2

- \*1 40℃を超える環境下で長時間本装置を手に持って運用し続けると、低温火傷など人体に危害を与える原因となることがあります
- \*2 ただし、結露しないこと
- \*3 低温環境下では、動作時間が短くなる可能性があります。

- 温度が激しく変化する場所(夏場の車内)や、熱器具など熱を発生する物の近くに放置しないでください。  
本装置のケースが変形したり、故障の原因となります。



- 温泉地など硫化水素の発生する場所や海岸など塩分の多いところで使用すると、本装置の寿命が短くなる可能性があります。



# 注意

- ラジオ、テレビ、携帯電話など電波を利用した機器や強い磁界が発生する機器の近くに設置、使用しないでください。

ラジオやテレビなどに雑音が入ったり、本装置が正常に動作しなくなる原因となることがあります。



- 本装置に他の機器を近接設置する場合、当該機器の設置・運用基準を必ず守ってください。

本装置が誤動作する原因となることがあります。



- お客様ご自身で本装置に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してください。万一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



- 本装置のカメラライト部を人の目に近づけて点灯、発光させないでください。

視力障害の原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがの原因となります。



- スポンなどの後ろポケットに本装置を入れたまま、椅子などに座らないでください。

故障の原因となります。



- 本装置を衣服のポケットなどに入れたまま、暖房器具など熱を発生するものや、高温になる場所(火のそば、暖房器具のそば、直射日光が当たる場所、炎天下の車内など)の近くや、携帯用カイロと一緒に長時間携帯しないでください。

ポケット内の本装置が暖房器具などにより過熱され、低温やけどの原因となることがあります。



- 充電電池パックの液が漏れた場合は、本装置の電池装着部に付いた液をよく拭き取ってから、新しい充電電池パックを入れてください。

故障、感電、火災の原因となります。



- 指定の充電器以外は、使用しないでください。

故障、感電、火災の原因となります。



# 注意

- 液晶ディスプレイ内部の液体は、絶対に触れたり口に入れたりしないでください。

失明など人体に影響を及ぼす恐れがあります。万が一口に入った場合は、すぐにうがいをしてください。また、皮膚に付着したり目に入った場合は、すぐに流水で15分以上洗浄してください。



- ACアダプタによる充電状態のまま、充電クレードルおよび通信クレードルに本装置を挿さないでください。

故障、感電の原因となります。



- 濡れた手で充電器のケーブルの接続・取り外しはしないでください。

故障、感電の原因となります。



- 本装置をぶつけたり、落下させないでください。

破損や故障、ケガの原因となります。



- 不安定な場所(棚など)でのご使用や保管は避けてください。

不用意な落下による故障やケガの原因となります。



- 長期的な振動(バイクや自動車の荷台に入れての移動など)や強いショック(落下など)を与えないでください。

故障の原因となります。



- 充電電池パックが漏液し、液が皮膚や衣服に付着した場合には、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。

皮膚がかぶれたりするなど、人体に影響を及ぼす恐れがあります。



- 充電電池パックの取り付け、取り外しを行う場合には、指を挟まないように注意してください。



- お買い上げ後、初めてご使用の際に、サビや異臭、発熱、その他異常と思われたときは、使用しないでお買い上げ販売店にご相談ください。



# 注意

- 長期間ご使用にならないときは、安全のため充電電池パックを外して保管してください。



- 本装置は、カバーを閉じた状態で IP54(\*)準拠の防塵／防滴機能を有しています。



\*IP54 とは、正常な動作や安定性を阻害する粉塵に対する保護、およびあらゆる方向からの水の飛まつに対する保護を意味します。

IP54 準拠の試験をクリアしておりますが、粉塵や水滴の製品内部への侵入を完全に防ぐことを保証するものではありません。

防水機能は有していません。水ぬれによる故障は、有償対応となります。

- 防塵／防滴性能を保つため、バッテリーカバーや本装置側面のゴムカバー類を隙間がないようにしっかりと閉め、必ず本書の記載を守ってご使用ください。



本書の記載を守らなかったことに起因する故障は、保証対象外であり、有償対応となりますので、あらかじめご了承ください。

- 本装置に水滴がついているときや、濡れた手でカバー類の開閉をしないでください。



故障の原因となります。

- カバー類を閉じる際は、パッキンにゴミ等が付着していないことを確認してください。



微細なゴミがわずかでも挟まると粉塵や水滴が侵入し、故障の原因となります。

- 揮発性の有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)や薬品、洗剤、化学雑巾で拭かないでください。また、殺虫剤を吹きかけないでください。



本装置のケースの変形や変色の原因となります。

- 本装置を清掃する時は、必ず本装置の電源を切り、充電電池パック、AC アダプタを外しておこなってください。やわらかい布を水またはぬるま湯を含ませて固く絞ってから汚れを優しく拭き取ってください。本装置がきれいになったら、やわらかく乾いたきれいな布で再び拭いてください。



湿気が多い布で本装置を拭くと故障の原因となることがあります。

# 注意

- 画面部、バーコード読取部、赤外線通信ポート部、カメラ部を清掃する時は、やわらかい布を水またはぬるま湯を含ませて固く絞ってから汚れを優しく拭き取ってください。

乾いた布で拭くと静電気が生じ、ほこりがつきやすくなります。強くこすると画面部、バーコード読取部、赤外線通信ポート部、カメラ部の傷や曇り、故障の原因となります。



- クレードル接続端子の清掃を1ヶ月に1回程度行ってください。清掃の際は、本装置の電源を切り、充電地パック、ACアダプタを外してから、やわらかく乾いたきれいな布や綿棒で端子の接点を軽く拭いてください。

清掃を行わないと、汚れ、ほこりにより、故障の原因となります。電源を切り、充電地パック、ACアダプタを外してから行わないと、故障、感電、火災の原因となります。



# 無線製品としての注意事項

## 警告

■ 総務省における2003(平成15)年度の「電波の医用機器等への影響に関する調査」の結果、無線LAN機器から発射される電波が植込み型の医療機器に及ぼす影響について、特定の心臓ペースメーカーを除き影響のないことが報告されており、この影響を受けたペースメーカーも1機種のみ・最大6cmの距離で影響があったことが報告されています。この影響を受けたペースメーカーの利用者全員に対しては、総務省より注意喚起が行われています。

■ このように、本装置が植込み型医療機器に与える影響は極めて少ないものですが、安全のためのマージンを鑑み、**本装置は心臓ペースメーカーなど植込み型医療機器 装着部から15cm以上離してご使用下さい。**詳しい内容については、各医療機関・医療機器メーカーにお問い合わせ下さい。



<参考サイト>

・総務省

電波の医療機器等への影響に関する調査

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/seitai/chis/index.htm>

・一般社団法人 日本不整脈デバイス工業会(旧・ペースメーカー協議会)

<http://www.jadia.or.jp/index.html>

■ 本装置の電波出力は、例えば携帯電話などに比べて遥かに低く抑えられているため、医療電気機器や自動制御機器に与える影響は極めて少ないものですが、使用に際しては各医療機関、医療機器メーカー、自動制御機器メーカー、及び区域管理者等の指示に従って下さい。**特に医療機関や区域管理者が本装置の使用を禁止した区域では、本装置の電源は切ってください。**詳しい内容については、各医療機関、医療機器メーカー、自動制御機器メーカー、及び区域管理者等にお問い合わせ下さい。



# 警告



- 現在各航空会社では、航空機の飛行状態などに応じて、機内での無線機器・電子機器などの使用を禁止しており、本装置もその該当機器となります。電子機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがありますので、**使用が禁止されている場合には、本装置の電源を切ってください。**詳しい内容については、各航空会社にお問い合わせ下さい。
- 2014(平成 26)年 9 月 1 日より使用制限が緩和されました。詳しい内容については、以下の参考サイトをご覧ください。

## <参考サイト>

・国土交通省 航空局 安全部 空港安全・保安対策課

「航空機内における電子機器の使用制限を緩和します」

(平成 26 年 8 月 7 日)

[http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku09\\_hh\\_000055.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku09_hh_000055.html)

・総務省

「無線設備規則の一部を改正する省令(平成 19 年総務省令第 6 号)」

(2007 年 1 月 31 日)

[http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1006644/www.soumu.go.jp/](http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1006644/www.soumu.go.jp/menu_hourei/s_hourei/pdf/sy_070131_075_b.pdf)

[menu\\_hourei/s\\_hourei/pdf/sy\\_070131\\_075\\_b.pdf](http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1006644/www.soumu.go.jp/menu_hourei/s_hourei/pdf/sy_070131_075_b.pdf)

「無線設備規則の一部を改正する省令(平成 17 年総務省令第 93 号)」

(2005 年 5 月 16 日)

[http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1006644/www.soumu.go.jp/](http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1006644/www.soumu.go.jp/menu_hourei/pdf/170516_h17so93_02.pdf)

[menu\\_hourei/pdf/170516\\_h17so93\\_02.pdf](http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1006644/www.soumu.go.jp/menu_hourei/pdf/170516_h17so93_02.pdf)

# ⚠ 注意



- 本装置には、日本国における無線設備規則第 49 条の 20「小電力データ通信システムの無線局の無線設備」として、2.4GHz 帯小電力データ通信システム、2.4GHz 帯高度化小電力データ通信システム、及び 5GHz 帯小電力データ通信システム－IEEE802.11a 準拠(W52/W53/W56)－が搭載されており、端末設備等規則第 36 条「電波を使用する自営電気通信端末設備」が搭載されています。  
**本装置の日本国以外への持ち出しやご使用はできません。**

- 本装置には 5GHz 帯小電力データ通信システムは、2005 年 5 月 16 日の総務省令の改正に伴い、日本独自に割り当てられていた 4 チャンネルの従来帯域(J52)から 10MHz 上方にシフトして 8 チャンネルに拡張された国際標準帯域(W52/W53)を使用することとなりました。さらに、2007 年 1 月 31 日の総務省令の改正に伴い、5.6GHz 帯の国際標準帯域(W56)の 11 チャンネルが使用できるようになりました。本商品は、これら国際標準の「W52/W53/W56」帯域を使用する機器に接続することが出来ます。

IEEE802.11b/g/n			
IEEE802.11a/n			
J52	W52	W53	W56

## <各帯域の中心周波数>

### W52 帯域:

#### <20MHz システム>

36CH(5.18GHz),40CH(5.20GHz),44CH(5.22GHz),48CH(5.24GHz)

#### <40MHz システム>

38CH(5.19GHz),46CH(5.23GHz)

### W53 帯域:

#### <20MHz システム>

52CH(5.26GHz),56CH(5.28GHz),60CH(5.30GHz),64CH(5.32GHz)

#### <40MHz システム>

54CH(5.27GHz),62CH(5.31GHz)

### W56 帯域:

#### <20MHz システム>

100CH(5.50GHz),104CH(5.52GHz),108CH(5.54GHz),112CH(5.56GHz),  
116CH(5.58GHz),120CH(5.60GHz),124CH(5.62GHz),128CH(5.64GHz),  
132CH(5.66GHz),136CH(5.68GHz),140CH(5.70GHz)

#### <40MHz システム>

102CH(5.51GHz),110CH(5.55GHz),118CH(5.59GHz),126CH(5.63GHz),  
134CH(5.67GHz)

## <参考サイト>

・総務省

新規制定・改正法令

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_hourei/s\\_houritsu.html](http://www.soumu.go.jp/menu_hourei/s_houritsu.html)

・一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)

5GHz 帯無線 LAN 周波数の変更」に関するガイドラインについて

[http://home.jeita.or.jp/page\\_file/20150518140317\\_Ekt1H2lTb.pdf](http://home.jeita.or.jp/page_file/20150518140317_Ekt1H2lTb.pdf)

# 注意

■ 「W53/W56」帯域を使用する親局(無線 LAN アクセスポイント等)は DFS(レーダーの干渉波を検出し自動的にチャンネルを変更する仕組み)の搭載が義務づけられており、本装置を「W53/W56」帯域で使用するときには、以下の事象が発生することがあります。

- ・ レーダー波検出のため、親局起動直後に1分間の電波送出の待機時間が発生し、その間はこの親局と通信が行えません。
- ・ 通信中に親局がレーダー波を検出した場合、親局の自動チャンネル変更のため、この親局との通信が中断される場合があります。

■ 5GHz 帯小電力データ通信システムとして、本商品を「W52/W53」帯域で使用する場合には、電波法により屋外での使用が禁じられています。



■ 本装置は、2.4GHz 帯高度化小電力データ通信システムとして、使用可能な帯域全てを使用する無線設備であり、無線 LAN の変調方式として DS-SS 方式および OFDM 方式を採用しています。想定干渉距離は 40m 以下であり、移動体識別装置の帯域を回避可能です。

**2.4DS/OF4**



また、Bluetoothは変調方式として FH-SS 方式を採用しています。干渉距離は 10m であり、移動体識別装置の帯域を回避可能です。

**2.4 FH 1**



■ 2.4GHz 帯高度化小電力データ通信システムとして本装置が使用する周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を要する無線局)が運用されています。



1. 本装置を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本装置から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯域を変更するか又は電波の発射を停止した上、弊社営業担当または保守担当にご連絡を頂き、混信回避のための処置等(例えばパーティションの設置など)についてご相談ください。
3. その他、本装置から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局等に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、弊社営業担当または保守担当までお問い合わせください。

# 注意

■ 40 MHz システムの使用設定を ON にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、すぐに 40 MHz システムの使用設定を OFF にしてください。



■ 一般の電話機やテレビ・ラジオ・その他無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本装置を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります(本装置の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別出来ます)。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。



1. 本装置と影響を受けている装置の距離を離す。
2. 影響を受けている機器が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本装置の電力を供給する。
3. 経験のある電話機・テレビ・ラジオの技術者に相談をする。

■ トラック無線(CB 無線)やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の総務省 総合通信局へ申し入れてください。詳しくは総合通信局へお問い合わせ下さい。



<参考サイト>

・総合通信局の管轄地域と所在地(問い合わせ先)

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/material/commtab1.htm>

■ 本装置は、電波の特性上、設置場所や環境により、通信距離や通信容量が異なります。このため、システム導入時や電波干渉物のレイアウト変更の際には、**事前に電波環境調査(サイトサーベイ)を行い、アクセスポイントを最適な位置に設置してください。**



■ 本装置の電波出力は、一般社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格(RCR STD-38)」に基づく基準値を遥かに下回っています。しかしながら、本装置の通常のご使用に際しては、万が一でも人体に影響を及ぼさないよう、人体との直接的な接触を最小限にした使い方をお勧めします。



■ 本装置のご使用により、補聴器などにノイズなどを引き起こす可能性がありますので、補聴器などを装着されている方は使用前にご確認下さい。



- 一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)より「無線 LAN のセキュリティに関する注意事項 第 1 版」が 2010 年 3 月に公表されております。下記に、このガイドラインに記載されている「無線 LAN 商品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意」を掲載いたします。

#### 無線 LAN 商品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線 LAN アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

##### ◆通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
- ・ メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

##### ◆不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- ・ コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN 製品は、セキュリティに関する仕組みを持っているので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

- 購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない無線 LAN 商品があります。従って、セキュリティ問題発生の可能性を少なくするために、本装置をご使用になる前に、必ずセキュリティに関する設定を行ってください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、弊社営業担当または保守担当までお問い合わせ下さい。

#### <参考サイト>

- ・ 一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)  
パソコンを安心して利用するために(セキュリティ対策) (2015 年 6 月)  
<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=786&ca=14>  
無線 LAN のセキュリティに関する注意事項 第 1 版 (2010 年 3 月)  
[http://home.jeita.or.jp/page\\_file/20110510155841\\_KMAZEPqBFb.pdf](http://home.jeita.or.jp/page_file/20110510155841_KMAZEPqBFb.pdf)  
無線 LAN 製品の性能表示についての注意事項 第 1 版 (2010 年 3 月)  
[http://home.jeita.or.jp/page\\_file/20110510155841\\_fTxjYy5mXJ.pdf](http://home.jeita.or.jp/page_file/20110510155841_fTxjYy5mXJ.pdf)
- ・ 総務省  
無線 LAN のセキュリティに関するガイドライン  
一般利用者が安心して無線 LAN を利用するために(2012 年 11 月 2 日)  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000183224.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000183224.pdf)  
企業等が安心して無線 LAN を導入・運用するために(2013 年 1 月 30 日)  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000199320.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000199320.pdf)
- ・ 独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)  
一般家庭における無線 LAN のセキュリティに関する注意 (2012 年 9 月 27 日)  
<http://www.ipa.go.jp/security/ciadr/wirelesslan.html>

# 目次

安全に正しくお使いいただくために.....	1
目次.....	17
箱の中身を確認する.....	19
添付品.....	19
ご使用になる前に.....	20
使用環境について.....	20
充電電池パック/バックアップ電池/カレンダー電池について.....	20
その他の注意事項.....	20
電池の特性について.....	21
充電電池パックを廃棄するとき.....	21
各部の名称とはたらき.....	22
前面.....	22
左側面/右側面.....	23
上部.....	24
底面.....	24
背面.....	25
電源の種類とそのはたらき.....	26
充電電池パック(動作用電池)とは.....	26
カレンダー電池とは.....	26
Pocket@i FX を使えるようにする.....	27
充電電池パックを取り付ける.....	27
電源を入れる.....	27
充電電池パックを充電する.....	28
ACアダプタを使って充電する.....	28
充電器を使って充電する.....	28
充電電池パックを交換する.....	29
充電電池パックの取り出しかた.....	29
充電電池パックの取りつけかた.....	30

ハンドベルト／ハンドストラップを取り付ける.....	33
ハンドベルトを取り付ける.....	33
ハンドストラップを取り付ける（対象：PW-WT91-21/-22）.....	34
バーコードを読み取る.....	35
NFCを読み取る.....	36
USB 機器を接続する.....	37
microSD カードを装着する.....	38
microSD カードを装着する.....	38
microSD カードを取り外す.....	39
microSIM カードを装着する.....	40
リセットスイッチの押しかた.....	41
カメラについて.....	41
お手入れのしかたと長期間保管するには.....	42
本体の清掃方法と注意事項.....	42
長期間保管するとき.....	42
困ったときは.....	43
製品仕様.....	44
オプション品.....	51

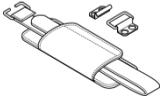
# 箱の中身を確認する



箱を開けたら、次のものが入っているか確認してください。

万が一不足しているものがある場合は、購入した販売店にご連絡ください。

## 添付品

品名	数量	備考
Pocket@i FX 本体(本装置)	1	PW-WT91-01 PW-WT91-11 PW-WT91-21 PW-WT91-02 PW-WT91-12 PW-WT91-22 
充電電池パック	1	PW-WT24-01 PW-WT24-01A 
ハンドベルト (もしくは ハンドストラップ)	1	<ハンドベルト> PW-WT91-01、11、02、12 用  <ハンドストラップ> PW-WT91-21、22 用 
スタイラスペン	1	PW-WT98-01 
EULA/保証書	1	ソフトウェア使用許諾書(2種類) 保証書  大切に保管してください。
ご使用になる前に	1	必ずお読みください。 

本装置に標準実装されているソフトウェアの操作方法は、下記の NEC プラットフォームズ(株)ハンディターミナルポータルサイト(<https://www.necplatforms.co.jp/ts/potdev/>)でご確認ください。

なお、ハンディターミナルポータルサイトへのアクセスに際しては、あらかじめ WEB 上での会員登録が必要となりますのでご了承ください。

## ご使用になる前に



本装置は、精密な電子部品で構成されています。末永くご使用いただくために、次のことを必ずお守りください。

### ■ 使用環境について

- 本装置は、温湿度が  $-10^{\circ}\text{C}$ ～ $50^{\circ}\text{C}$ 、 $20\%$ ～ $85\%$  の環境でご使用ください。  
この条件から外れて使用すると、本装置の機能が低下するだけでなく、本装置故障の原因となります。
- 急激な温度変化があるところでの使用は避けてください。  
特に寒冷地などで、温度の低い場所から暖かい場所へ移動した場合、本装置内部に結露(水滴)が生じることがあります。このような場合、水滴が自然に蒸発するまで、本装置の使用を控えてください。
- 夏場の車内は、 $60^{\circ}\text{C}$ 以上になることがあります。このような場所に本装置を放置しないでください。高温環境下に充電電池パックを放置すると充電電池パックの性能が著しく低下します。また万が一、放置してしまった場合は、本装置が常温に戻るまで、本装置の使用を控えてください。
- 不安定な場所に放置することは避けてください。落下などによる故障は、有償修理になります。また、ご使用のときは必ず添付のハンドベルト(もしくはハンドストラップ)を使用してください。

### ■ 充電電池パック／バックアップ電池／カレンダー電池について

- 充電電池パックは、充放電を繰り返すと徐々に劣化し容量が減少していく特性があります。充電をしても使用時間が著しく短くなった場合は寿命と考えられますので、すみやかに新しい充電電池パックと交換してください。寿命の目安(約 300 回の充放電、またはご購入から約 2 年経過した場合のどちらか早いほう)を過ぎた充電電池パックを使用し続けると、電池残量を正確に表示できなくなることがあります。
- 使用環境温度が低いと充電電池パックの性能が低下するため、十分に充電した充電電池パックでも使用時間が短くなったり、残量を正確に表示できなくなることがあります。
- バックアップ電源として電気二重層コンデンサを内蔵しています。充電電池パック交換時に本装置の RAM データを保持するためのものです。電気二重層コンデンサは、充電電池パックから充電(約 1 時間)されます。
- 電気二重層コンデンサは基本的にメンテナンス・フリーですが、本装置をご使用になる周囲温度などの環境によっては、容量が減少する場合があります。RAM データを保持(約 5 分)できなくなった場合には、保守員に修理を依頼してください。
- カレンダー電池(本装置に内蔵)は、充電電池パック交換時に本装置のカレンダー(時計)を保持するためのものです。カレンダー電池は、充電電池パックから充電(約 48 時間)されるため、本装置には常に充電した充電電池パックを取り付けておいてください。ただし、長期間使用しない場合は、本装置から充電電池パックを外して保管してください。
- カレンダー電池の寿命は約 5 年です。カレンダー(時計)情報が保持(約 1 ヶ月)できなくなった場合には、カレンダー電池の交換を保守員に依頼してください。

### ■ その他の注意事項

- 本装置を分解することは、絶対にやめてください。

## 電池の特性について

- ・ 充電電池パックの充電中や、充電電池パックで本装置を使用しているときは、充電電池パックが熱くなることがあります。これは充電電池パック内部の化学反応による電気エネルギーが発生するためで、故障ではありません。
- ・ 充電電池パックの使用時間は、本装置の使用環境によって変わります。特に使用環境温度が低いと使用時間が短くなります。
- ・ 充電電池パックの充電時間や充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、低温もしくは高温の環境下で充電すると、充電を中断する場合があります。充電電池パックの性能を十分発揮させるために18～28℃の範囲内で充電することをおすすめします。
- ・ 充電電池パックの寿命は、使用回数と使用時間によって変わります。連続で使用した場合は、約300回程度のご使用で容量が低下します。寿命が過ぎ、性能が低下した充電電池パックを使用し続けると、大切なデータが消去されたり、充電電池パックが異常発熱する場合があります。充電電池パックは約300回の充放電、または使用開始から約2年のどちらか早いほうで買い替えることをおすすめします。
- ・ 充電電池パックは、いったん満充電しても放置すると自然放電します。使用しない場合でも、2～3ヶ月に一度は充電することをおすすめします。また、1ヶ月以上の長期間使用しない場合は、電池残量を半分程度にしてから、本装置や充電器から外して涼しい場所に保管してください。

## 充電電池パックを廃棄するとき

リチウムイオン電池はリサイクルできる貴重な資源です。



Li-ion00

不要になった充電電池パックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで  
NEC プラットフォームズ受付窓口へお持ちください

充電電池パックを交換したあと不要になった充電電池パック、または使用済み製品から取り外した充電電池パックをリサイクルするときは、端子を絶縁しないとショートによる発煙、発火の恐れがあります。端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、当社受付窓口にお持ちください。

### ■ NEC プラットフォームズ受付窓口

詳細は、NECプラットフォームズ(株) 環境ホームページ (<https://www.necplatforms.co.jp/csr/kankyo/index.html>) をご覧ください。お問い合わせは、本装置や充電電池パックをご購入いただいた当社販売店、または当社受付窓口をお願いします。

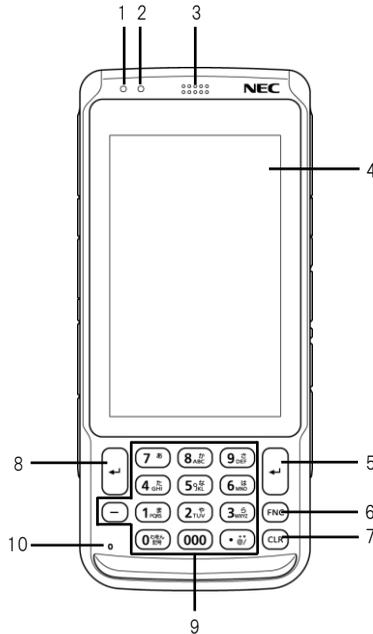
# 各部の名称とはたらき



本装置の各部の名称とはたらきをご紹介します。

## 前面

<全モデル共通>



No.	名称	説明
1	インジケータ LED	バーコード読み取り時にグリーンに点灯します。
2	充電 LED	メインバッテリーの充電ステータスを表示します。 オレンジ点灯: 充電中 消灯: 充電完了 オレンジ点滅: 充電エラー
3	スピーカ	各種サウンドを出力します。
4	画面	指または付属のスタイラスペンで操作します。(*1)(*2)(*3)
5	R-Enter キー	入力の確定や操作に使用します。
6	FNC キー	ファンクションキー操作時に使用します。
7	CLR キー	入力した文字を消去する操作に使用します。
8	L-Enter キー	入力の確定や操作に使用します。
9	テンキー	数値および文字の入力に使用します。
10	マイク	音声入力に使用します。

\*1)画面は強く押すと傷ついたり、割れることがあります。

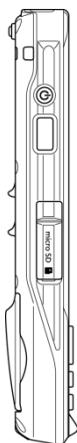
\*2)指以外で画面を操作するときは、付属のスタイラスペン以外のものを使用しないでください。ほかの先端が尖ったものを使用すると、画面が傷ついたり割れることがあります。

また、付属のスタイラスペンは画面のタップ動作のみ可能です。描画操作は保証できません。

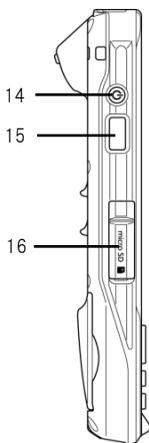
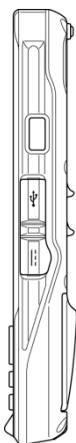
\*3)画面上には保護フィルムが貼り付けられていますが、これは剥がさないでください。

使用によりフィルムに傷、剥がれ等が発生した場合には、保守員または、購入元へご相談ください。

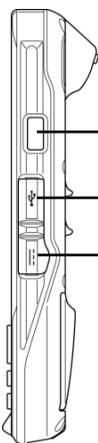
## 左側面／右側面



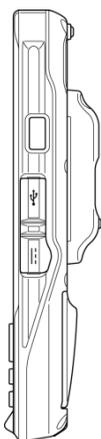
PW-WT91-01/-11



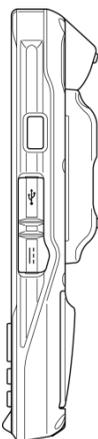
PW-WT91-02/-12



PW-WT91-21



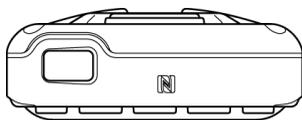
PW-WT91-22



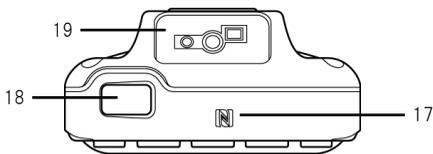
No.	名称	説明
11	R-Trigger キー	バーコード読取りに使用します。
12	microUSB ポート	USB 機器を接続します。 <sup>(*1)</sup>
13	DC ジャック	AC アダプタを接続します。
14	電源スイッチ	電源 ON および OFF に使用します。
15	L-Trigger キー	バーコード読取りに使用します。
16	microSD カードスロット	microSD カードを装着するスロットです。

\*1)接続する機器は、消費電流 200mA 未満を推奨します。専用ドライバのインストールが必要な場合があります。

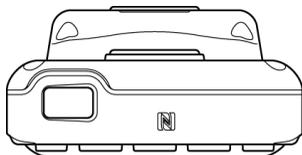
## 上部



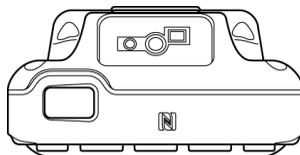
PW-WT91-01/-11



PW-WT91-02/-12



PW-WT91-21

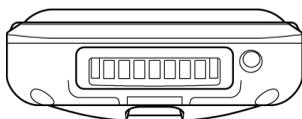


PW-WT91-22

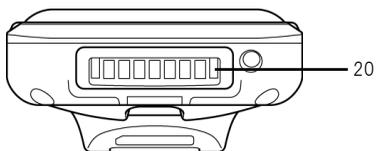
No.	名称	説明
17	NFC 読取部	IC カードをかざす部分です。
18	赤外線通信ポート	自動販売機との通信に使用します。(*1)
19	バーコード読取部	バーコードを読取ります。(PW-WT91-02/-12/-22 のみ)

\*1)別途、オプションソフトウェアが必要です。

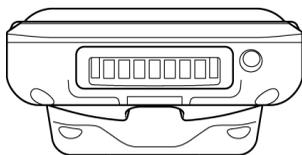
## 底面



PW-WT91-01/-11



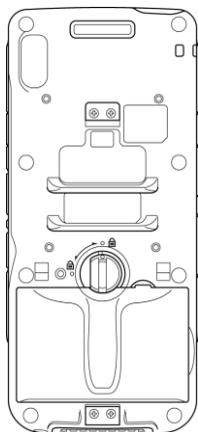
PW-WT91-02/-12



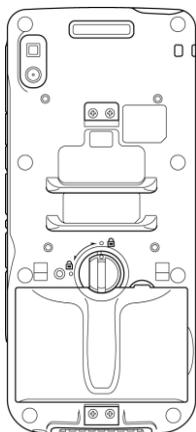
PW-WT91-21/-22

No.	名称	説明
20	クレードル接続端子	通信クレードルおよび充電クレードルと接続し通信や給電に使用します。

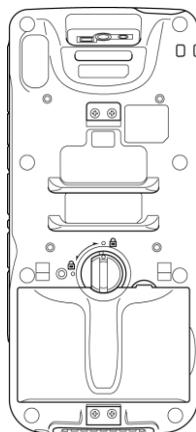
## 背面



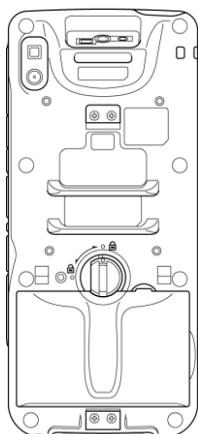
PW-WT91-01



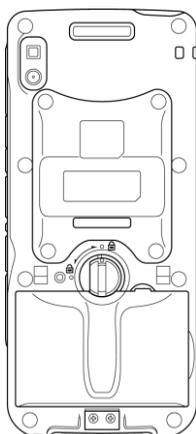
PW-WT91-11



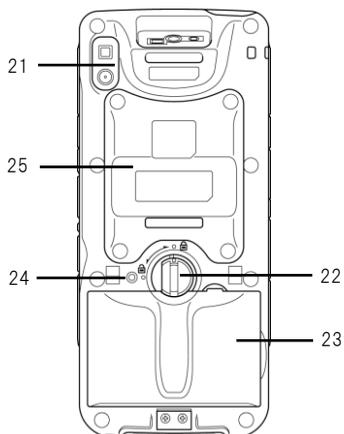
PW-WT91-02



PW-WT91-12



PW-WT91-21



PW-WT91-22

No.	名称	説明
21	カメラ	静止画の撮影に使用します。
22	バッテリーカバーロックスイッチ	バッテリーカバーを開閉する時に回転させます。
23	バッテリーカバー	バッテリーを中に装着します。
24	リセットスイッチ	リセット時に使用します。
25	3G 格納部	3G 通信モジュール格納部です。

# 電源の種類とそのはたらき



本装置の電源について説明します。

## ■ 充電電池パック(動作用電池)とは

本装置の充電電池パックは、充電式のリチウムイオン電池を使用しています。電池が消耗したときは、充電すると何回でも使用できますが、充放電を繰り返すと、徐々に劣化して容量が減少します。満充電したあとの使用時間が著しく短くなった場合は、寿命と考えられるので新しい充電電池パックと交換してください。

### ◆お知らせ

- 寿命の目安は約 300 回の充放電、またはご購入から約 2 年経過した場合のどちらか早いほうになります。

### ！ 注意

- 新しい充電電池パックは十分に充電されていません。ご使用前に必ず充電してください。  
→参照「充電電池パックを充電する」P.26  
→参照「充電電池パックを交換する」P.27
- 長期間使用しない場合は、本装置から充電電池パックを外して保管してください。

## ■ カレンダー電池とは

本装置のカレンダー電池は、充電式のマンガンシリコン系のリチウム電池を使用しています。カレンダー電池は、充電電池パックが空になったとき、または満充電にした充電電池パックと交換するときに、本装置のカレンダー(時計)を保持するために使われます。

### ◆お知らせ

- 寿命の目安は、約 5 年です。
- カレンダー電池の寿命は、本装置から充電電池パックを取り外したり、空の充電電池パックを入れた状態で放置する期間によって変わります。
- カレンダー電池の交換は、保守員に依頼してください。
- カレンダー電池は、充電電池パックから充電します。ご購入時は、満充電にした充電電池パックを取り付け、約 2 日間保存してください。

# Pocket@i FX を使えるようにする



本装置をはじめてご使用になるときは、次の準備をしてください。

## ■ 充電電池パックを取り付ける

### ① 本装置に充電電池パックを取り付けます。

→ 参照「充電電池パックの取り付けかた」P.30

### ② 充電電池パックを充電します。

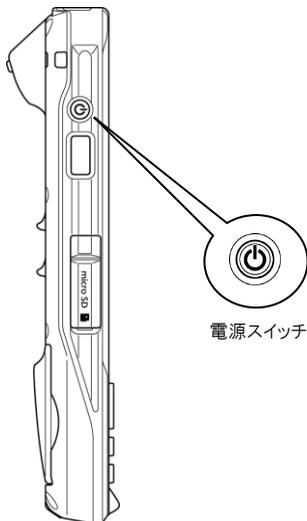
→ 参照「充電電池パックを充電する」P.28

#### ！ 注意

- ・ カレンダ電池は充電電池パックから充電されます。ご購入時は満充電にした充電電池パックを取り付け、約 2 日間保存してください。
- ・ 本装置を長期間使用しないときは、本装置から充電電池パックを取り外し、保管してください。また、その際 2～3 ヶ月間に1度は充電電池パックを充電するようにしてください。

## ■ 電源を入れる

本装置左側面の電源スイッチを押します。

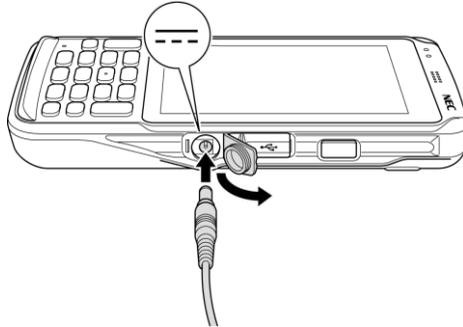


# 充電電池パックを充電する



## AC アダプタを使って充電する

- ① 本装置に充電電池パックがセットされていることを確認します。
- ② 本装置右側面の DC ジャックに AC アダプタ(別売)を接続します。



- ③ AC アダプタをコンセントに接続します。

充電が開始され、本装置前面の充電 LED がオレンジ色に点灯します。  
充電が終了すると、充電 LED は消灯します。

■ 充電 LED の表示

オレンジ点灯: 充電中

消灯: 充電完了

オレンジ点滅: 充電エラー

### ◆お知らせ

DC ジャックには挿抜寿命があります(3,000 回)。

1 日に複数回の電池充電が必要となる場合は、AC アダプタによる本体直接充電ではなく、充電器(別売)を利用した充電を推奨いたします。

## 充電器を使って充電する

- ① 本体直接充電

以下のいずれかの別売機器で本装置に装着したまま充電電池パックを充電できます。

PW-WT94-01 充電クレードル

PW-WT95-01 通信クレードル

- ② 充電電池パック単品充電

以下のいずれかの別売機器で充電電池パック単品の充電ができます。

PW-WT54-02 充電電池パック充電器

PW-WT54-04 集合充電器

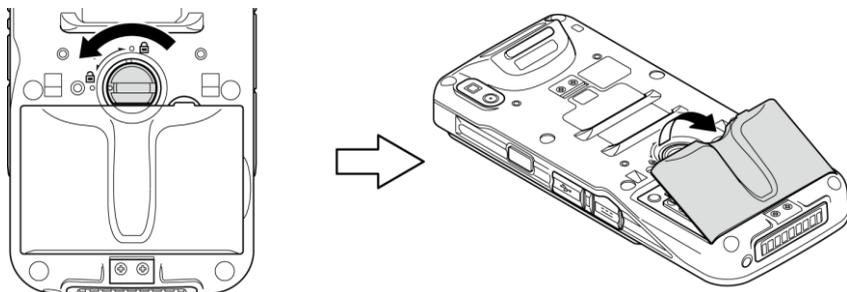
# 充電電池パックを交換する



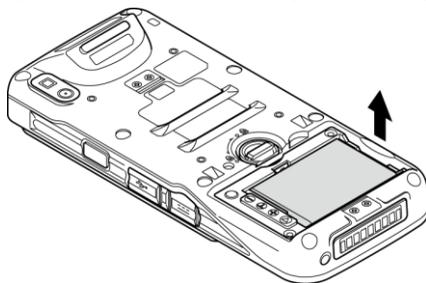
充電電池パックを本装置の動作中に誤って抜くことのないように注意して交換します。

## ■ 充電電池パックの取り出しかた

- ① 本装置背面のバッテリーカバーロックスイッチを  から  に切り替えて、バッテリーカバーを外します。カチッと音がするまで最後まで確実に回してください。



- ② 充電電池パックの端に指をかけ、矢印の方向に取り出します。

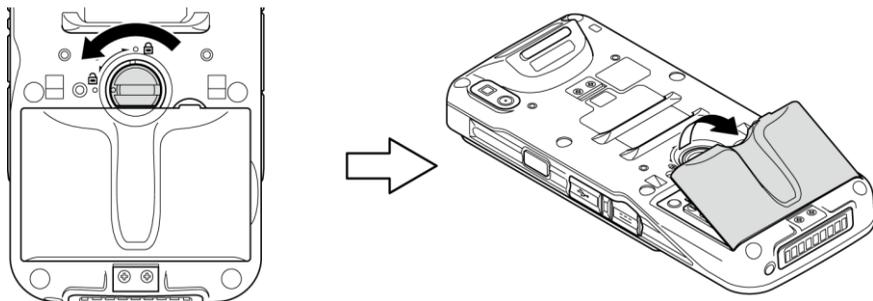


### ！ 注意

- 本装置の動作中及び起動時にバッテリーカバーロックスイッチのロックを解除したり、充電電池パックを取り出したりしないでください。特に起動中にロック解除を行うと、正常な起動の妨げとなり、電源が入らないなど異常な状態になることがあるので、起動中は絶対にロック解除を行わないでください。
- 本装置使用時は、バッテリーカバーロックスイッチを最後まで確実にロックしてください。
- RAM 上のデータは、充電電池パックでバックアップしています。充電電池パックを抜いても、本装置に内蔵のバックアップ電池（電気二重層コンデンサ）によりバックアップされますが、バックアップ電池の充電が十分でない場合や、一定の時間（約 5 分）を超えて充電電池パック抜いた状態にすると、RAM 上のデータは消去されます。これらを考慮して、必要に応じて保存が必要なデータは必ずサーバなどの上位装置、またはファイルメモリに保存してください。
- AC アダプタから充電した状態で、充電電池パックの交換を行わないでください。

## ■ 充電電池パックの取り付けかた

- ① 本装置背面のバッテリーカバーロックスイッチを  から  に切り替えて、バッテリーカバーを外します。カチッと音がするまで最後まで確実に回してください。

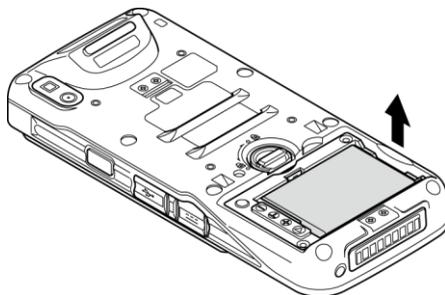


### ！ 注意

電源 ON の状態でバッテリーカバーを開けると、データの破壊や消失する場合がありますので、必ず電源 OFF してからバッテリーカバーを開けるようにしてください。

FlashDisk や SD カードにあるファイルへの書込みや RAM 上のデータを処理している時などに、バッテリーカバーを開けると強制電源 OFF しますが、処理により電源 OFF するまでに時間がかかる場合があります。OFF 処理が完了する前にバッテリーが外れてしまうことがあり、データのアクセス状態によっては破壊/消失します。

- ② 充電電池パックの端に指をかけ、矢印の方向に取り出します。



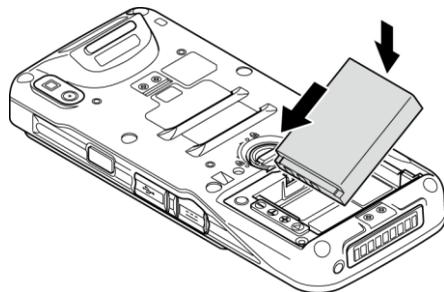
③ 充電電池パックの銘板部を上にし、充電電池パックをはめ込みます。

◆お知らせ

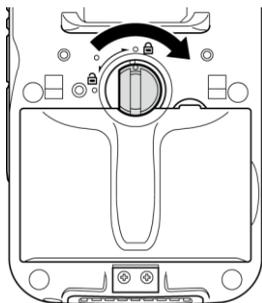
- ・ ご購入直後や長時間放置した充電電池パックは、動作時間が短い場合があります。満充電にしてからお使いください。

！注意

- ・ 充電電池パックを差し込む方向は、充電電池パックの電極と本体側の端子が合うように差し込んでください。
- ・ 本体側の電池端子部分および充電電池パックの端子部分は不用意に触れないでください。接触不良の原因になります。



④ バッテリカバーを閉じて、バッテリカバーロックスイッチを  から  に切り替えます。カチッと音がするまで最後まで確実にロックしてください。



## ■ 充電電池パック使用上の注意

- 専用の充電電池パック(PW-WT24-01 および PW-WT24-01A)以外は、絶対に使用しないでください。本装置が故障する原因となる場合があります。
- 周囲の温度が低い場合は、使用時間が短くなることがあります。
- 充電電池パックは分解したり、火中に投入しないでください。
- 充電電池パックはできるだけ高温の場所を避け、涼しい場所で保管してください。
- 電極を短絡させたり、落下などによる強い衝撃は与えないでください。
- 落下などによりバッテリーカバーが破損した場合は、バッテリーカバーの交換を保守員に依頼してください。
- 端子部分は、ごみなどの異物が付着しないようにしてください。もし、異物が付着した場合は、綿棒などで完全に取り除いたあと、充電器や本装置に取り付け、取り外しを数回繰り返してください。
- 充電電池パックは、リチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池はリサイクルできる貴重な資源です。使用済みのリチウムイオン電池は当社受付窓口にお持ちください。
- 充電は、AC アダプタ(PW-WT24-05 もしくは PW-WT94-05)、充電電池パック充電器(PW-WT54-02)、集合充電器(PW-WT54-04)、充電クレードル(PW-WT94-01)、通信クレードル(PW-WT95-01)で充電してください。各充電器を使用して充電する場合は、オプション機器に添付の取扱い手引きをよく読み、正しくお使いください。

### ◆お知らせ

- 指定の充電器で正しく充電した場合、充電電池パックの寿命の目安は約 300 回の充放電、またはご購入から約 2 年経過した場合のどちらか早いほうになります。

# ハンドベルト／ハンドストラップを取り付ける

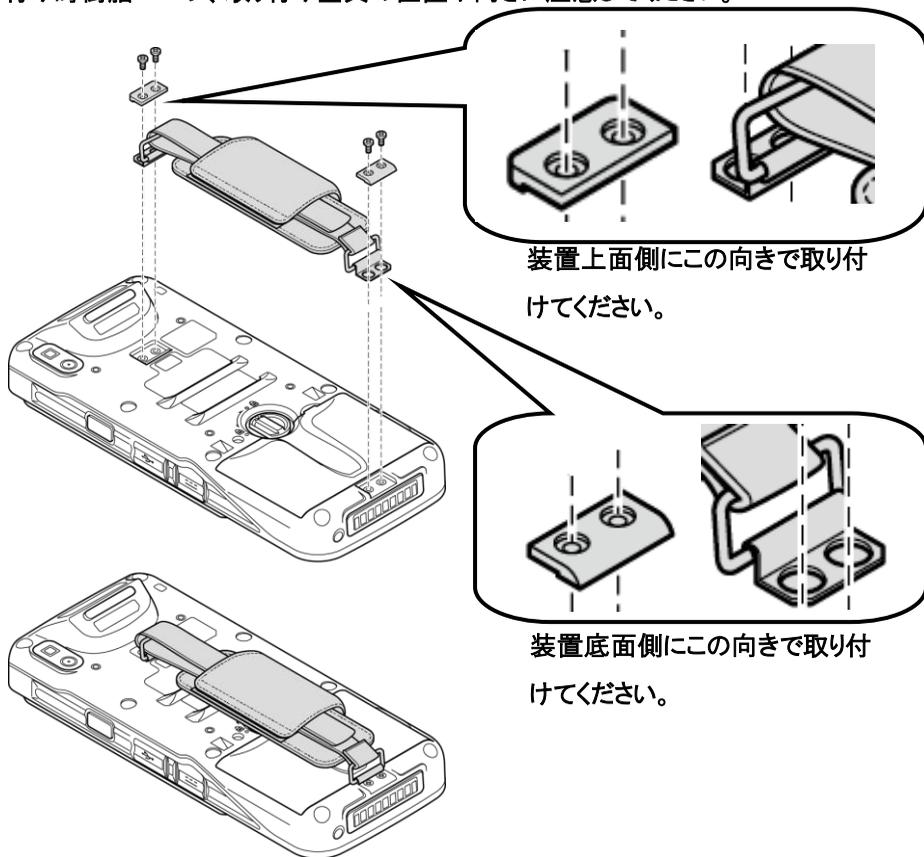


ご購入されたモデルによって種類が異なりますので、モデルに応じた取り付けを参照してください。

## ■ ハンドベルトを取り付ける

(対象：PW-WT91-01/-11/-02/-12)

- ① 本装置背面のキャップ(2箇所)を取り外し、キャップをハンドベルト取り付け金具にはめ込みます。
- ② 本装置に取り付け、固定します。  
取り付け時樹脂パーツ、取り付け金具の位置や向きに注意してください。



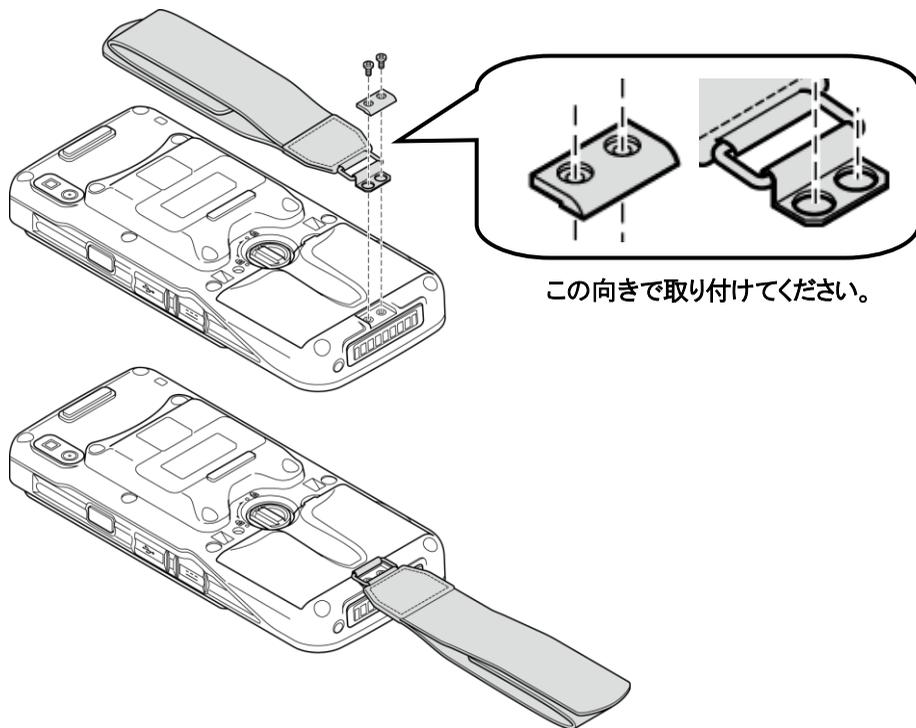
### ！ 注意

- ・ 取り付け取り外しの際、ねじは紛失しないように注意してください。

## ■ ハンドストラップを取り付ける（対象:PW-WT91-21/-22）

（対象:PW-WT91-21/-22）

- ① 本装置背面のキャップ(1箇所)を取り外し、キャップをハンドストラップ取り付け金具にはめ込みます。
- ② 本装置に取り付け、固定します。  
取り付け時樹脂パーツ、取り付け金具の向きに注意してください。



### ！ 注意

- ・ 取り付け取り外しの際、ねじは紛失しないように注意してください。

## バーコードを読み取る



(対象:PW-WT91-02/-12/-22)

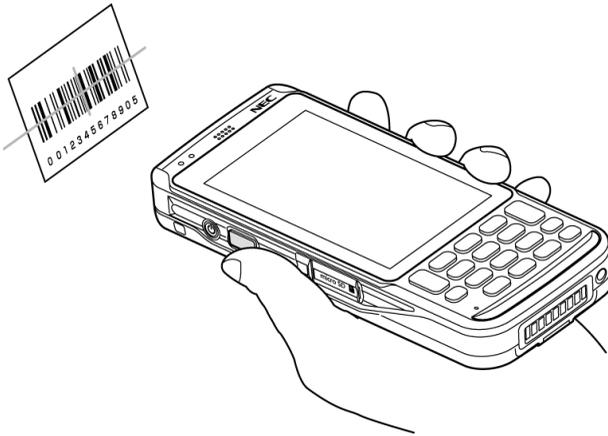
① バーコード読取部をバーコードに向けます。

② 適正な距離をおいて、[トリガ] キー(※)を押します。

※ 本装置側面の[R-Trigger] キー、[L-Trigger] キー、もしくは画面上に表示される読取キーになります。

③ 正常に読み取られると、インジケータ LED(※)が緑色に点灯します。

※ 本装置の設定によって、インジケータ LED、サウンド鳴動、バイブレータ振動を有効/無効にできます。



### ◆お知らせ

- 読み取りができない場合は、バーコードとバーコード読取部の角度や距離を変えて、再度読み取りしてください。
- 近接した複数のバーコードが並んでいる状態で読み取りする場合は、誤って違うバーコードを読み取ることがありますのでご注意ください。
- 本装置のスキヤナの特性により、バーコードの読み取り距離は約 55mm～300mm です。また、小さなバーコードを読み取る時はバーコード読取部を近づけて、大きなバーコードを読み取る時は遠ざけて読み取りいただくことをお奨めいたします。なお、最適な読み取り距離は、読み取るバーコードの種類や分解能、読み取り時の環境等により異なってきます。
- バーコード読取部が指紋やほこり等で汚れている場合、正常に読み取りできない場合があります。その場合は乾いた柔らかい布で拭いてください。

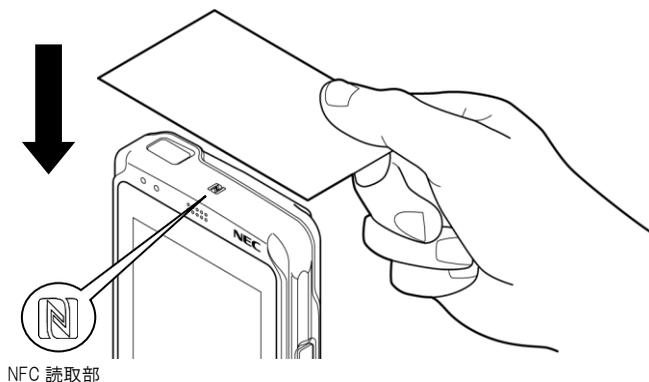
### ！注意

- 本装置のスキヤナはクラス1レーザエイミングを搭載しています。特に人体への影響はありませんが、レーザ光をのぞいたり、人に向けて照射しないでください。

## NFCを読み取る



本装置上部の NFC 読取部にカードを並行になるようにかざします。



NFC 読取部

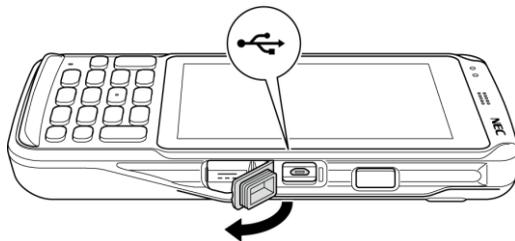
### ◆お知らせ

- 読み取れない場合は、カードを前後左右にずらしてかざしてください。
- 複数のカードを重ねて読ませないでください。正確に読み取らない場合があります。
- NFC 読取部の周辺に金属があると読み取りにくくなります。お財布などにカードを入れている場合は、取り出して読ませてください。
- カードは NFC 読取部と水平になるように接触して読ませてください。
- 総務省より型式指定を受けた通信機器を内蔵しています。
- 使用周波数は 13.56MHz 帯です。周囲に他のリーダー/ライターをご使用の場合、十分に離してお使いください。また、他の同一周波数帯を使用の無線局が近くにないことを確認してお使いください。

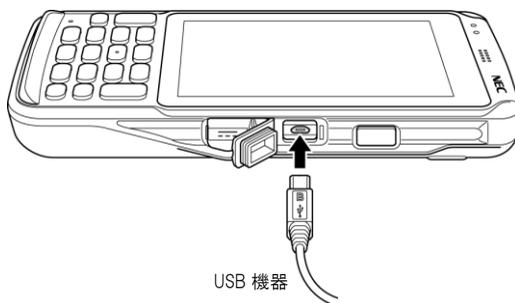
## USB 機器を接続する



- ① 本装置右側面の microUSB ポートカバーを開けます。



- ② USB 機器を接続します。

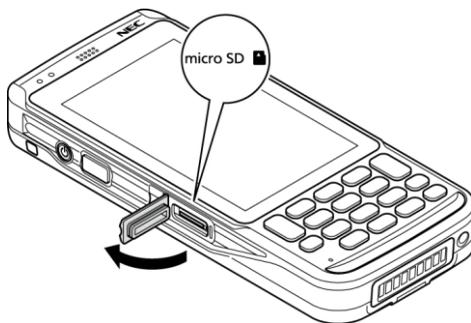


### ！ 注意

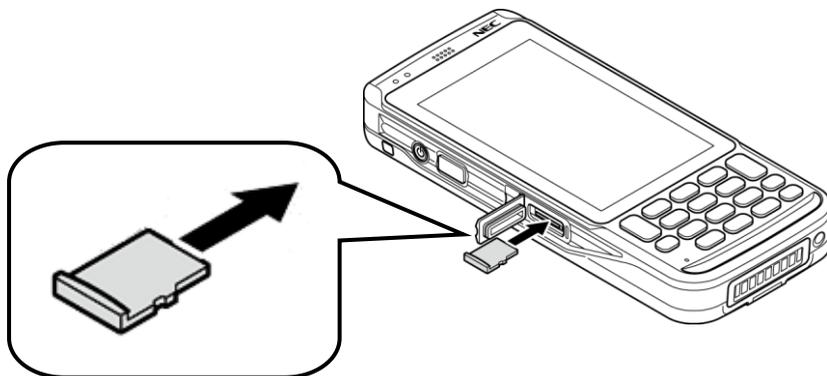
- 接続する機器は、消費電流 200mA 未満を推奨します。
- 専用ドライバのインストールが必要な場合があります。
- microUSB コネクタには向きがあり、microUSB ポートへ接続する方向も決まっています。間違った向きに無理に装着すると、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。装着する際は十分にご注意ください。
- USB 機器を接続する必要がある場合のみ、microUSB ポートカバーを開けるようにしてください。

## microSD カードを装着する

- ① 本装置左側面の microSD カードスロットカバーを開けます。



- ② microSD カードの端子が見える面を下にして、奥に突き当たるまで差し込みます。

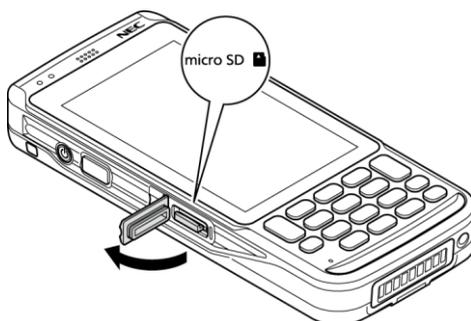


必ずこの向きに挿入してください。

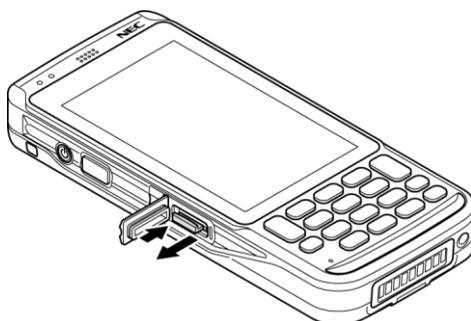
- ③ microSD カードスロットカバーを閉じます。

## microSD カードを取り外す

- ① 本装置左側面の microSD カードスロットカバーを開けます。



- ② microSD カードを押し込むとカードが押し出されますので、カードを引き抜きます。



- ③ microSD カードスロットカバーを閉じます。

### ！ 注意

- ・ カード規格:SD カード(2GB まで)、SDHC(4GB~32GB まで)が使用可能です。
- ・ microSD カードの装着、取り外しを行う前に、以下の点にご注意願います。  
(microSD カードのデータが破壊される恐れがあります)
  - 本装置の電源が ON しており、OS が起動した状態で行ってください。
  - 起動中のアプリケーションの終了や編集中的数据を保存してください。
- ・ microSD カードには表と裏があり、スロットへ装着する方向も決まっています。間違った向きに無理に装着すると、コネクタやスロットを破損する恐れがあります。装着する際は十分にご注意ください。
- ・ microSD カードを差し替える必要がある時だけ、microSD カードスロットカバーを開けるようにしてください。
- ・ 全ての microSD カード、microSDHC カードの動作を保証するものではありません。事前に評価をお願いいたします。

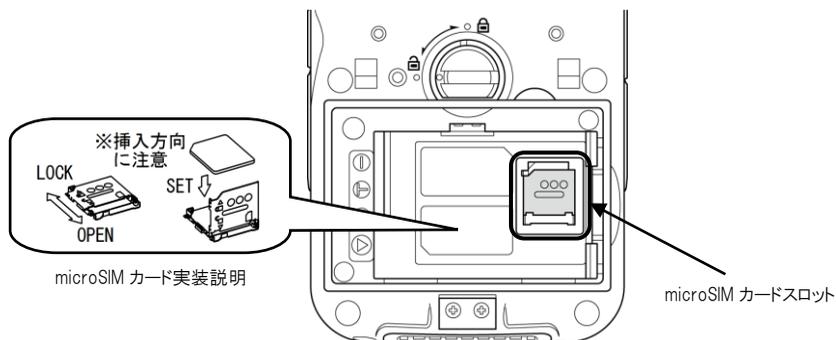
## microSIM カードを装着する



(対象:PW-WT91-21/-22)

microSIM カードスロットは、本装置背面のバッテリーカバーを開けた充電電池パック実装ボックス内にあります。

- ① スロットのフタ部分を「」方向(OOPEN 方向)にスライドさせ、フタを開けます。



- ② スロット内に microSIM を端子面を下にして置きます。
- ③ スロットのフタ部分を「」方向(LOCK 方向)にスライドさせ、ロックします。

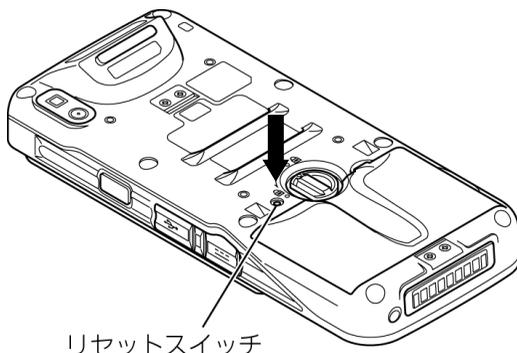
### ! 注意

- NTT ドコモの 3G 回線契約の SIM しか使用できません。  
(LTE/4G 回線使用不可、MVNO 利用不可)
- 対応する SIM は「ドコモ miniUIM カード」になります。カード形状にご注意ください。

## リセットスイッチの押しかた



本装置背面のリセットスイッチを押します。



### ！ 注意

- リセットスイッチを押す際には、針やシャープペンシルなど、先の尖ったものや折れやすいものは使用しないでください。
- リセットスイッチを押すと、作業中のデータは破棄されます。作業内容を保存しておきたい場合は、リセットする前に必ず保存してください。

## カメラについて



(対象モデル:PW-WT91-11/-12/-21/-22)

対象モデルの装置背面には、カメラが付いています。また、カメラ用ライトが付いており、暗所での撮影も可能です。

### ！ 注意

- カメラに強い電氣的ノイズが加わると、画面にスジが入ることがありますが、一時的なものであるため、再度撮影をお願いします。
- カメラは照明の種類により、ちらつきが発生する場合があります。
- カメラの画像に白点が発生する場合があります。出荷時に正常であっても宇宙線の被曝により画素が損傷し、本現象が発生する場合があります。
- カメラのオートフォーカス作動時に機械音がする場合があります。
- カメラのオートフォーカスが作動しない場合は、一度被写体以外(距離が異なる場所)にカメラを向け、再度被写体にカメラを向けてください。
- カメラライト部を人の目に近づけて発光させないでください。視力障害の原因となります。



## ■ 本体の清掃方法と注意事項

### ■ 本体カバー部

清掃は、やわらかく乾いたきれいな布で行ってください。汚れがひどい場合は、やわらかい布を水でぬらし固く絞ってから汚れを拭き取ってください。湿気が多い布で装置を拭くと故障の原因となる可能性がありますので、装置がきれいになったら、やわらかく乾いたきれいな布で再び拭いてください。（スタイラスペン、充電電池パックも含む）

### ■ 画面部、バーコード読取部、赤外線通信ポート部、カメラ部

画面部、バーコード読取部、赤外線通信ポート部、カメラ部の汚れは、柔らかい布を水またはぬるま湯を含ませて固く絞ってから汚れをやさしく拭き取ってください。

### ！ 注意

- ・ お手入れするときは、本装置の電源を OFF にして充電電池パックを取り外してください。誤って入力する原因となります。
- ・ タッチパネルを強くこすると、傷または故障の原因となりますので、軽く拭取ってください。
- ・ 揮発性の有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）や薬品、洗剤、化学雑巾で拭かないでください。また、これらを含んだ汚れた布で拭かないでください。装置またはケースの変形、変色、故障の原因となります。

### ■ 日常のお手入れについて

不良・故障を防止し、良好な状態でご使用いただくために以下の定期的なクリーニングを行ってください。（月1回）

- ・ クレードル接続端子の接点汚れていると、クレードルによる充電や通信ができない場合があります。接続端子の接点汚れている場合は、乾いた綿棒で接点を軽く拭いてください。接続端子を強く押し付けると、端子が変形する可能性があるため、ご注意ください。
- ・ 電池端子および充電電池パックの端子は、乾いた綿棒で拭いてください。端子が汚れていると、電源が入らないまたは電源が切断される場合があります。電池端子を強く押し付けると、端子が変形する可能性があるため、ご注意ください。

## ■ 長期間保管するとき

### ■ 保管のしかた

直射日光が長時間あたる場所や、粉塵の多い場所を避けて、なるべく温度が 0～35℃の範囲内で保管してください。

### ■ 保管していた本装置を使うとき

使用を開始するときは、充電電池パックを充電してから取り付けてください。  
→参照「Pocket@i FX を使えるようにする」 P.25

# 困ったときは



本装置を使用中に「故障かな?」と思われる症状が起きたら、次の表を参考にチェックしてください。  
また、次の表の対策をしても症状が改善されない場合は、保守部門にご相談ください。

	症状	原因	対策
電源	電源ボタンを押しても動作しない	充電電池パックが取り付けられていない	充電電池パックを取り付けてください。
		充電電池パックが正しく取り付けられていない	充電電池パックを正しく取り付けてください。
		充電電池パックの電池電圧がかなり低下している	充電電池パックを充電済みの充電電池パックと交換してください。
		充電電池パックの寿命	新しい充電電池パックと交換してください。
		バッテリーカバーがロックされていない	バッテリーカバーを確実にロックしてください。
		装置本体が故障している	保守員にご相談ください。
ディスプレイ	液晶ディスプレイが暗い、または薄くて見えない	液晶ディスプレイのバックライト輝度が調節されていない	バックライト輝度調節で明るさを調節してください。
	表示された文字が読みづらい	液晶ディスプレイに斑がある	液晶ディスプレイは、周囲の温度変化などで文字や図形の濃度が変化する特性があります。斑があるのは故障ではありません。
バッテリー	充電電池パックを指定時間充電しても、すぐに充電電池の警告メッセージが出る	充電電池パックの寿命	充電電池パックを新しく購入してください。
		充電器が故障している	保守員に修理を依頼してください。
スキャナ	バーコードが読み取れない	読み取り距離や角度が適切でない	本書「バーコードを読み取る」P.32 を参照してください。
		バーコード読取部が汚れている	乾いた柔らかい布で汚れを取り除いてください。
クレードル	バッテリー単体充電エラーになる	充電電池パックが正しく取り付けられていない	充電電池パックを正しく取り付けてください。
		クレードル本体が故障している	保守員にご相談ください。



型番	PW-WT91-01	PW-WT91-11	PW-WT91-21	PW-WT91-02	PW-WT91-12	PW-WT91-22
品名	Pocket@i FX スキャナナシモデル	Pocket@i FX スキャナナシ カメラモデル	Pocket@i FX スキャナナシカメラ 3G モデル	Pocket@i FX スキャナモデル	Pocket@i FX スキャナカメラモデル	Pocket@i FX スキャナカメラ 3G モデル
スキャナ	—	—	—	○	○	○
カメラ	—	○	○	—	○	○
WAN(3G)	—	—	○	—	—	○
無線 LAN	○	○	○	○	○	○
Bluetooth	○	○	○	○	○	○
NFC	○	○	○	○	○	○
自販機通信	○	○	○	○	○	○
microUSB ポート	○	○	○	○	○	○
microSD カードスロット	○	○	○	○	○	○
外形寸法 (W/D/H mm) (凸部含まず)	79x178x22	79x178x22	79x178x22	79x178x22	79x178x22	79x178x22
(参考) 最大外形寸法 (W/D/H mm) (凸部含む)	79x178x29	79x178x29	79x178x39.5	79x178x38.5	79x178x38.5	79x178x39.5
質量(g) (充電池含む)	約 280	約 283	約 310	約 295	約 298	約 325

(1) 制御部、インタフェース部（全モデル）

項目		仕様	
制御部	CPU	ARM-Cortex 1GHz（最大）	
	メモリ	RAM	512MB（システム領域含む）
		FROM	2GB（ユーザー領域 1.5GB 含む）
インタフェース部		DC ジャック（※1）	
		microUSB ポート（出力電圧:DC5V、出力電流:0.5A(MAX)）（※2）	
		microSD カードスロット（※3）	
		クレードル接続端子（充電クレードル、通信クレードル）	

※1 DC ジャックには挿抜寿命があります(3,000 回)。1 日に複数回の電池充電が必要となる場合は、AC アダプタ(PW-WT24-05 もしくは PW-WT94-05)による本体直接充電ではなく、充電クレードル(PW-WT94-01)を利用した充電を推奨いたします。

※2 接続する USB 機器は、消費電流 0.2A(200mA)未満を推奨します。

※3 カード規格:SD カード(2GB まで)、SDHC(4GB~32GB まで)が使用可能です。

全ての microSD カード、microSDHC カードの動作を保証するものではありません。事前に十分な評価を実施の上、ご利用ください。

(2) 入力部、表示部、サウンド、LED（全モデル）

項目		仕様
入力部	キー種類	装置前面: R-Enter キー、L-Enter キー、FNC キー、CLR キー、テンキー、 装置側面: R-Trigger キー、L-Trigger キー、電源スイッチ
	タッチパネル	静電容量式タッチパネル
表示部	種類	4.3 型カラー-TFT 液晶（バックライトつき）
	解像度	横 240×縦 400 ドット（WQVGA）（横 480×縦 800 ドット WVGA 設定可能）
	有効表示領域	横 55.8×縦 93.0mm
	表示色	65,536 色
サウンド	スピーカ	1個
	マイク	1個
LED	充電 LED	1 色:オレンジ ・充電中(オレンジ点灯)、充電完了(消灯)、充電異常(オレンジ点滅)
	インジケータ LED	3 色:グリーン、オレンジ、レッド ・バーコードスキャン完了時(グリーン点灯)、 ・システムアップデート(処理中:オレンジ点滅、終了:グリーン点滅、エラー:レッド点滅) ・アプリケーションによる制御

(3) 電源部（全モデル）

項目		仕様
主電源		充電電池パック（PW-WT24-01、PW-WT24-01A）
本体充電機能		あり（※）
充電電池パック	電池種類	リチウムイオン(Li-ion)二次電池
	出力電圧/容量	PW-WT24-01:DC 3.7V/1800mAh、PW-WT24-01A:DC 3.7V/1880mAh
	駆動時間	約 9 時間 ＜対象装置＞ スキャナなしモデル(PW-WT91-01) スキャナなしカメラモデル(PW-WT91-11) スキャナなしカメラ 3G モデル(PW-WT91-21) ＜条件＞ JEITA 動作モード A ※常温(25℃)、満充電の新品充電電池パック使用
		約 8 時間 ＜対象装置＞ スキャナモデル(PW-WT91-02) スキャナカメラモデル(PW-WT91-12) スキャナカメラ 3G モデル(PW-WT91-22) ＜条件＞ 10 秒間に 2 回スキャナ読み込み、1 回 20kB 無線 LAN データ読み込み(IEEE802.11bg) ※常温(25℃)、満充電の新品充電電池パック使用
	寿命	約 300 回の充放電、または使用開始から約 2 年のどちらか早いほう (寿命時の容量は初期に比べ約 60%相当)
	充電時間（※）	約 2.5 時間(ただし、本体電源 OFF 時) 周囲温度が 5～40℃の範囲で充電できますが、電池性能を十分に発揮させるためには 18～28℃の範囲での充電を推奨
	バックアップ	種類
バックアップ時間		RAM データ: 約 5 分
寿命		約 5 年
充電時間		約 1 時間
カード電池	電池種類	MS(マンガン・シリコン)リチウム二次電池
	バックアップ期間	約 1 ヶ月
	寿命	約 5 年
	充電時間	約 48 時間

※ 充電仕様

以下のいずれかの機器でPDA本体に装着したまま充電電池パックを充電できます。

PW-WT24-05 / PW-WT94-05 ACアダプタ

PW-WT94-01 充電クレードル

PW-WT95-01 通信クレードル

## (5) スキャナ (PW-WT91-02/-12/-22)

項目	仕様
読取方式	CMOS イメージャ
読取バーコード	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1D バーコード UPC-A/E、JAN/EAN、Code 39、Code 93、Code128/GS1-128、Codabar(NW7)、Interleaved 2 of 5、Industrial 2 of 5、IATA、MSI/Plessey、GS1 Databar Limited、Customer Bar Code(国内郵便)</li> <li>■ 1D/Stacked バーコード GS1 Databar、GS1 Databar Expanded</li> <li>■ 2D バーコード PDF417、Micro PDF417、QR Code、Micro QR、DataMatrix、Aztec Code、Maxi Code</li> <li>■ Composite バーコード EAN/UPC Composite、GS1 Databar/GS1-128 Composite</li> </ul>
読取最小分解能	1D バーコード: 0.127mm (※) 2D バーコード: 0.212mm (※)
読取深度	約 55mm~300mm (※)
読取用光源	赤色 LED
エイミング光源	半導体レーザー Class 1
ピッチ角度	±50° (※)
スキュー角度	±50° (※)
チルト角度	±180° (※)

※ 読み取るバーコードの種類や分解能、読み取り時の環境等により異なります。

## (6) カメラ (PW-WT91-11/-12/-21/-22)

項目	仕様
有効画素数	500 万画素
フォーカス調整	オート (10cm~∞)
カメラライト	白色 LED
ズーム	電子ズーム、5 段階 32 倍まで

## (7) WAN(3G)通信 (PW-WT91-21/-22)

項目	仕様
対応キャリア	NTTドコモ (※)
無線周波数	2GHz/800MHz 帯 (FOMA プラスエリア対応)
アクセス方式	W-CDMA (DS-CDMA、T-HCDMA)
データ通信速度	・FOMA ハイスピードエリア内: 上り:最大 5.7Mbps、下り:最大 7.2Mbps ・FOMA ハイスピードエリア外: 上り:最大 384kbps、下り:最大 384kbps
対応通信サービス	データパケット通信のみ

※ NTTドコモの 3G 回線契約の SIM しか使用できません。(LTE/4G 回線使用不可、MVNO 利用不可) 対応する SIM は「ドコモ miniUIM カード」になります。カード形状にご注意ください。

## (8) 無線 LAN (全モデル)

項目		仕様
通信方式	適用規格	国際標準規格:IEEE802.11a/b/g/n 国内標準規格:ARIB STD-33/STD-T66/STD-T71
	取得認証	電波法 技術適合認証 「小電力データ通信システム/第二世代小電力データ通信システム」 「広帯域移動アクセスシステム(CSMA)」
	拡散変調方式	IEEE802.11a/g/n OFDM 直行周波数分割多重方式 IEEE802.11b DSSS 直接拡散方式
	伝送速度(※1)	IEEE802.11n(※2) 150Mbps(※3)まで IEEE802.11a/g 54Mbps まで IEEE802.11b 11Mbps まで
	周波数帯域	IEEE802.11a/n W52 帯 : 36/40/44/48ch (5.18~5.24GHz) W53 帯 : 52/56/60/64ch (5.26~5.32GHz) W56 帯 : 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch (5.50~5.70GHz) IEEE802.11b/g/n 1/2/3/4/5/6/7/8/9/10/11/12/13ch (2.412~2.472GHz)
	セキュリティ方式(※4)	・WEP(64bit, 128bit) (※5) ・WPA ホーム(TKIP), WPA2 ホーム(AES) (※6) ・WPA エンタープライズ(TKIP), WPA2 エンタープライズ(AES) 認証方式 : EAP-TLS, PEAPV0(MS-CHAP-V2) ※上記以外のセキュリティ方式はサポートしていません。
	端末通信可能距離(伝送距離)	IEEE802.11a 屋内オープンスペース約 25m IEEE802.11b/g 屋内オープンスペース約 25m、屋外オープンスペース約 50m ※伝送距離は使用環境によって異なります。

※1 表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値速度であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

※2 IEEE802.11a/n : 1×1 SISO / 1stream(HT20/HT40)

IEEE802.11g/n : 1×1 SISO / 1stream(HT20/HT40)、2×2 MIMO / 2stream(HT20)

※3 HT40 モードでショートガードインターバル使用時の理論値となります。

※4 標準規格の規定で、WEP-TKIP 暗号は IEEE802.11a/b/g でのみ使用可能です。IEEE802.11an、IEEE802.11gn で WEP-TKIP 暗号を使用した場合、それぞれ IEEE802.11a 接続、IEEE802.11g 接続となります。

※5 WEP(40bit、104bit)と表現されることもあります。

※6 WPA-PSK(TKIP)、WPA2-PSK(AES)、または、WPA パーソナル(TKIP)、WPA2 パーソナル(AES)と表現されることもあります。

## (9) Bluetooth (全モデル)

項目	仕様
通信方式	Bluetooth Ver.4.0+EDR、2.4GHz 帯 FH-SS 方式
対応プロファイル	SPP (Serial Port Profile)、FTP (File Transfer Protocol)、PAN-U (Personal Area Network User)
出カクラス	Class2
通信距離	約 10m (環境により短くなる場合があります)

## (10) NFC (全モデル)

項目	仕様			
周波数	13.56MHz			
対応 IC カード	規格	種別	サポート	備考
	ISO14443 TypeA(106kbps)	MIFARE Standard	○	TypeA は MIFARE Standard および Ultralight のみサポートします。
		MIFARE Ultralight	○	
		その他 MIFARE	—	
		その他 TypeA	—	
	ISO14443 TypeB(106kbps)	—	○	ISO 規格を逸脱するカードが存在するため、導入時に十分な事前検証をお願いします。
FeliCa(212kbps/424kbps)	FeliCa Standard	○	FeliCa Standard のセキュリティ領域への読み書きは、セキュリティ機能に対応していないためできません。	
	FeliCa Lite	○		
	FeliCa Lite-S	○		
読取枚数	1 枚			
読取距離	本装置上部の読取部に接触			

## (11) 自販機通信 (全モデル)

項目	仕様
通信規格	自販機赤外線通信規格(JVMA、VCCS)に対応 (※)
通信方式	ASK、4,800bps

※ 別途自販機通信ソフトウェアが必要になります。

※ 本装置にはプリンタ機能がありません。Bluetooth 対応の外付けプリンタをご使用ください。

(事前に十分な動作検証を行った上でご使用ください)

(12) 動作環境（全モデル）

項目	仕様
耐環境性	落下耐性:1.5m(※1)／落下耐久:0.2m x 1,000回(※2)／防塵防滴:JIS防沫形(IP54準拠)(※3)
動作温度／湿度	-10～50℃(充電は5～40℃)／20～85%RH(結露なきこと)
保存温度／湿度	-20～60℃／10～90%RH(結露なきこと)

※1 コンクリート上、6面4角に対して各2回のサイクルで落下耐性評価をクリア(当社基準による)。

ただし、落下による損失(故障、傷、破損、データ消失等)を保証するものではありません。

また、衝撃により破損が生じた場合は、その後の耐衝撃性能のみならず、防塵・防滴性能も損なわれている可能性がありますので、修理することをお勧めします。

※2 コンクリート上、6面4角に対して各100回のサイクルで落下耐久評価をクリア(当社基準による)。

ただし、落下による損失(故障、傷、破損、データ消失等)を保証するものではありません。

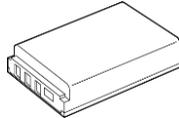
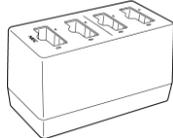
また、衝撃により破損が生じた場合は、その後の耐衝撃性能のみならず、防塵・防滴性能も損なわれている可能性がありますので、修理することをお勧めします。

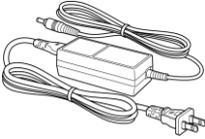
※3 14: 粉塵が内部に侵入することを防止し、若干の粉塵の浸入があっても正常な運転を阻害せず、

またいかなる方向からの水の飛沫によっても有害な影響を受けないこと。

# オプション品



品名	充電電池パック	本体に 1 個標準添付  
型名	PW-WT24-01、PW-WT24-01A	
電池	充電式リチウムイオン電池	
外形寸法	約 35.3(W)×53.1(D)×11.4(H)mm	
質量	約 45g	
品名	充電電池パック充電器	充電電池パック 1 個の単品充電が可能な充電器、AC アダプタ標準添付  
型番	PW-WT54-02	
電源	DC 5V、3A	
充電時間	約 2.5 時間	
外形寸法	約 45(W)×80(D)×30(H)mm	
質量	約 40g (AC アダプタ含まず)	
品名	集合充電器	充電電池パックを最大 4 個まで同時に充電が可能な充電器、AC アダプタ標準添付  
型番	PW-WT54-04	
電源	DC 5V、3A	
充電時間	約 5 時間	
外形寸法	約 149(W)×75(D)×81(H)mm	
質量	約 270g (AC アダプタ含まず)	
品名	充電クレードル	本体および充電電池パック単品充電が可能、AC アダプタ標準添付  
型番	PW-WT94-01	
電源	DC 12V、3A	
充電時間	約 2.5 時間(本体、充電電池パックそれぞれ)	
外形寸法	約 115(W)×155(D)×120(H)mm (凸部含まず)	
質量	約 353g (AC アダプタ含まず)	
品名	通信クレードル	本体と PC などとの間で USB もしくは LAN インタフェースを介し通信が可能、本体および充電電池パック単品充電が可能、AC アダプタ標準添付  
型番	PW-WT95-01	
電源	DC 12V、3A	
充電時間	約 2.5 時間(本体、充電電池パックそれぞれ)	
インタフェース	LAN: 10BASE-T/100BASE-TX USB(ホスト): TypeA(メス)、USB2.0 USB クライアント(ホスト): TypeB(メス)、USB2.0	
外形寸法	約 115(W)×155(D)×120(H)mm (凸部含まず)	
質量	約 365g (AC アダプタ含まず)	

品名	AC アダプタ		<p>本体へ電源を供給するための AC アダプタ、本体に装着している充電電池パックを充電可能</p> 
型番	PW-WT24-05 【生産終了品】	PW-WT94-05	
電源	AC100V 50/60Hz		
定格出力	DC 5V、3A		
外形寸法	約 95(W) × 40(D) × 31(H)mm	約 109(W) × 48(D) × 34(H)mm	
質量	約 230g (アダプタ本体:約 150g) (電源コード:約 80g)	約 300g (アダプタ本体:約 210g) (電源コード:約 90g)	
ケーブル長	電源コード 約 1.5m DCコード 約 1.2m	電源コード 約 2.0m DCコード 約 1.2m	
品名	スタイラスペン		<p>本装置専用のタッチペン、本体に 1 本標準添付</p> 
型番	PW-WT98-01		
外形寸法	φ 約 6mm、長さ 約 108mm		
質量	約 3g		

ポケットアイ エフェックス  
**Pocket@i FX**  
取扱説明書

発行所 NEC プラットフォームズ株式会社

〒 101-8532  
東京都千代田区神田司町 2 丁目 3 番地  
TEL 03-3259-1311(代表)

ご注意

- (1)本書の内容の一部または全部を、無断で他に転載することは禁止されています。
- (2)本書の内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書の内容は、万全を期して作成しております。万一、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
- (4)運用した結果の影響については、(3)項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。



ポケットアイ エフェックス

# Pocket@i<sup>TM</sup> FX

**NEC** NEC プラットフォームズ株式会社  
2018 年 11 月 第 4 版

©NEC Platforms, Ltd. 2015-2018

NEC プラットフォームズ株式会社の許可なく  
複製、改変などを行うことはできません。